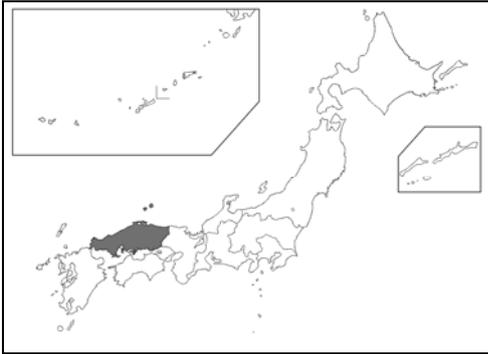


(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きに一服感がみられる。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

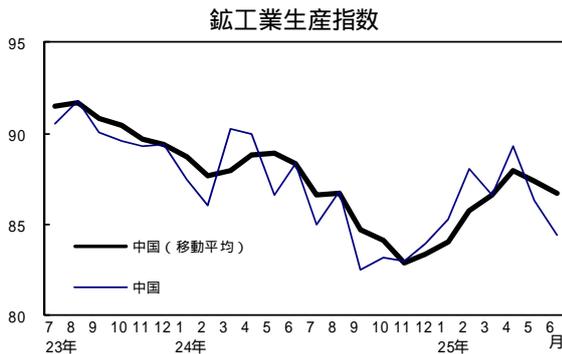
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 5 月)	今回 (平成 25 年 8 月)	
個人消費	持ち直し	持ち直しの動きに <u>一服感</u>	
住宅建設	減少	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

4～6月期には、鉄鋼は、設備メンテナンスの影響等から減少した。化学は、出荷が4月にずれ込んだ影響で生産が後ろ倒しになったこと等から増加した。輸送機械は、船舶関係部品の生産が行われたこと等から増加した。一般機械は、海外向けの半導体製造装置が増加したこと等から増加した。電子部品・デバイス、産業用機械に用いられる半導体集積回路が減少したこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
鉄鋼	16.5	4.4	0.3	4.7	0.0	4.2
化学	16.1	7.8	0.9	2.4	4.5	5.1
輸送機械	14.8	14.2	0.4	5.9	9.0	0.9
一般機械	10.7	5.9	7.0	18.1	6.6	3.0
電子部品・デバイス	7.3	3.2	8.0	5.8	3.8	1.0
鉱工業	100.0	4.0	0.0	3.1	3.2	2.3

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。最新月は速報値。

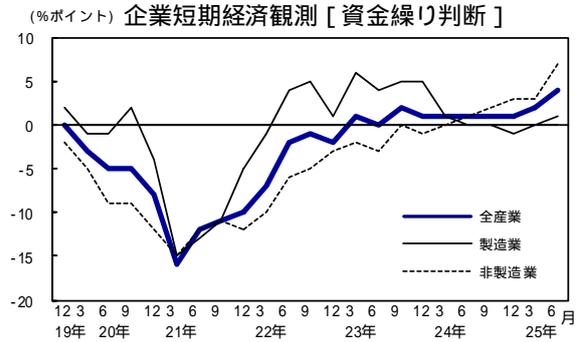
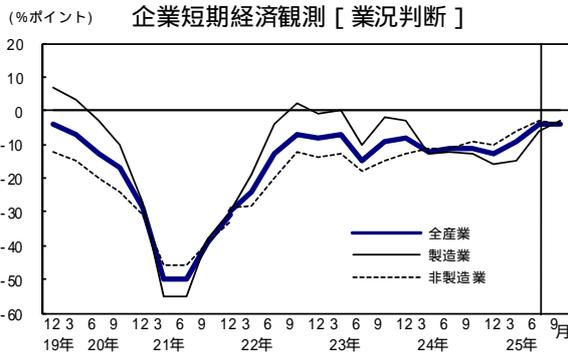
2. 太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期、6月は速報値。

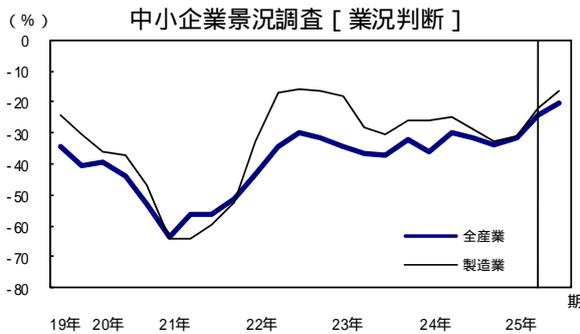
(2) 業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年9月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。

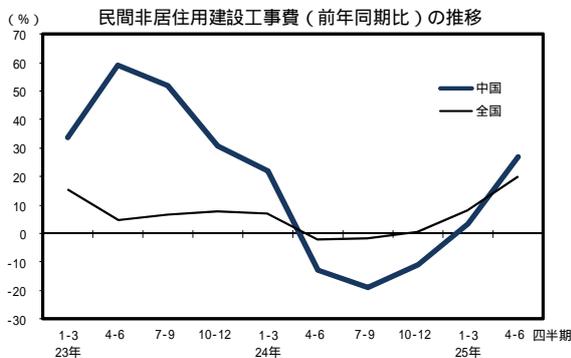


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「中小零細企業は人件費を削って利益確保に努めており、夏のボーナスも前年と比較してアップできる状況ではない(会計事務所)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績	25年度値
全産業	2.0 (0.2)	0.4 (6.5)
製造業	0.6 (2.6)	3.4 (6.7)
非製造業	4.1 (3.7)	4.2 (6.2)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きに一服感がみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.5%減、5月は同0.1%減、6月は同0.5%減となった。

大型小売店販売額

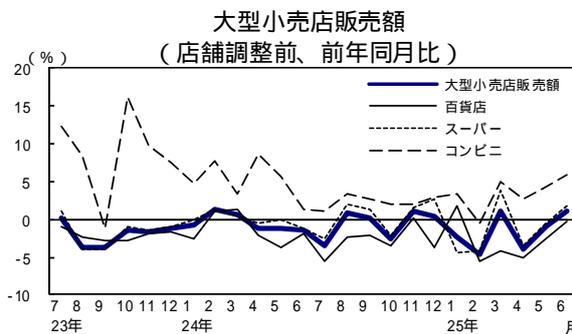
百貨店は、4月は気温の低い日が多かったこともあり、春物衣料が伸び悩んだこと等から前年を下回った。5月はアクセサリやハンドバッグといった身の回り品が伸び悩んだこと等から前年を下回った。6月は飲食料品が不調だったこと等から前年を下回った。

スーパーは、4月は気温が低めに推移したこともあり衣料品全般が不調だったこと等から、4～6月期は前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、51.7となり前月より0.5ポイント低下した。

「セール商材の販売の動きが非常に鈍い。来客数は前年比で横ばいであるが、買上率が低く、価格にシビアな客が多い印象である (百貨店)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

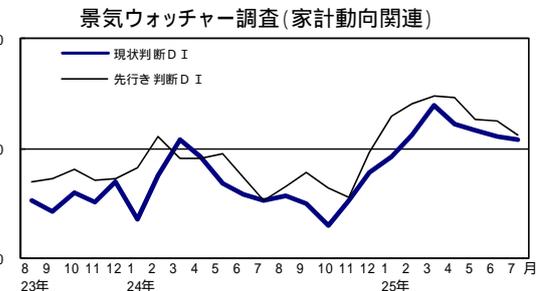
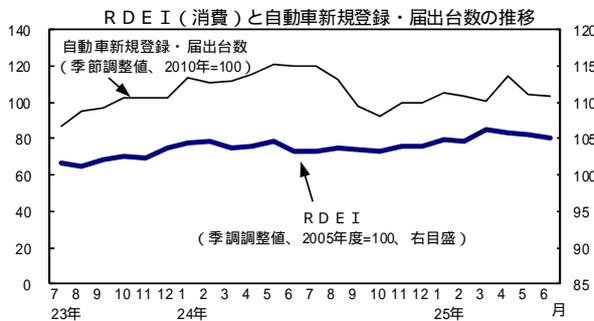


	25年4-6月	25年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.2	0.5	0.1	0.5
大型小売店(*2)	1.3	3.9	1.0	1.1
百貨店(*2)	2.6	5.0	2.6	0.2
スーパー(*2)	0.7	3.5	0.4	1.7
コンビニ(*2)	4.3	2.6	4.4	5.9
乗用車(*3)	9.6	1.9	10.1	14.8
(季節調整値)(*3)	3.9	13.4	8.8	1.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

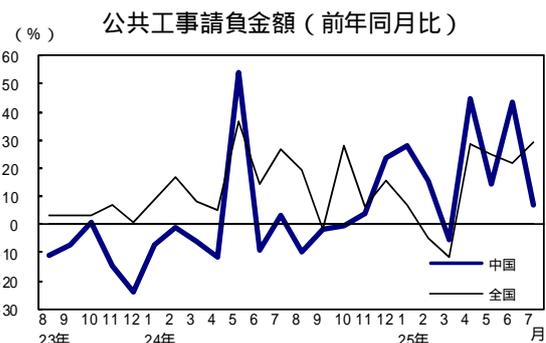
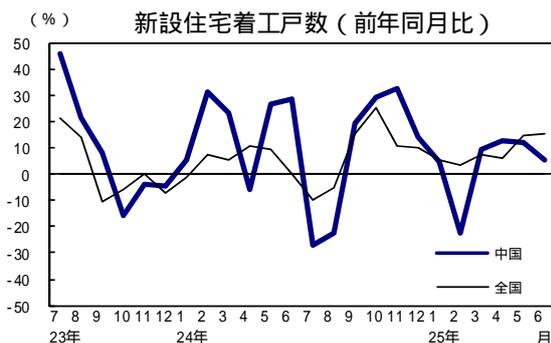
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

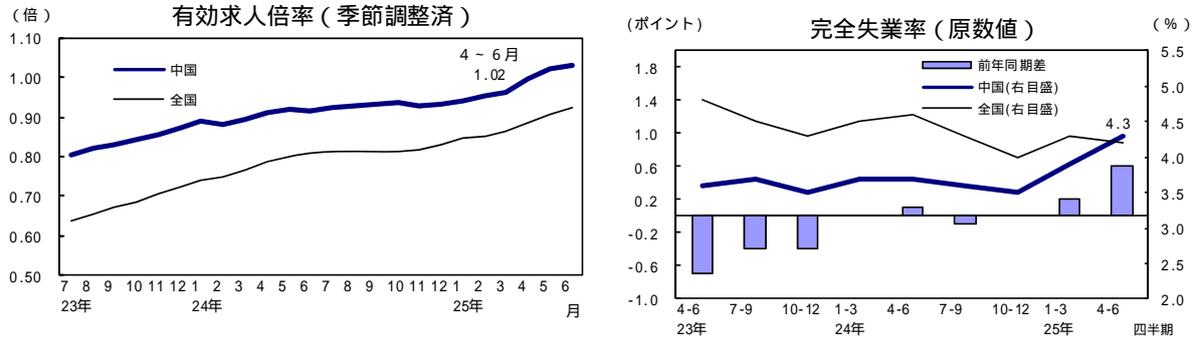


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連 (現状)]

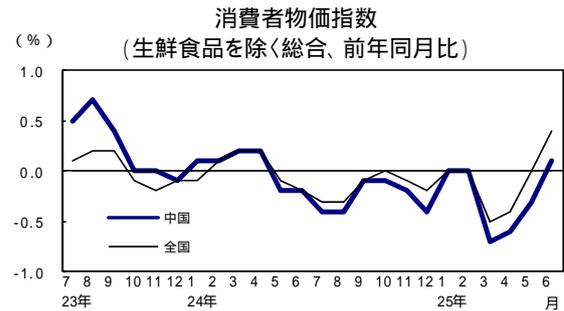
「製造業を中心に正規雇用は進まず、相変わらず派遣や有期雇用が多い(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加し、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年7-9月	10-12月	25年1-3月	4-6月	25年7月
倒産件数	135	132	127	126	44
(前年比)	1.5	7.7	2.3	7.7	10.2
負債総額	196	234	265	719	42
(前年比)	3.2	48.0	34.7	197.3	57.3



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・問い合わせや反応状況からみると、好況感が依然としてあり、良い状態で横ばいである(住宅販売会社)

<先行き>

・政治が安定したことで企業に安心感が広がっており、物価上昇などの懸念材料はあるが、企業の採用状況は変わらず上向きになる(人材派遣会社)

